

2022年 1月 25日

広島大学長
越智光夫様

グループリーダー級職員資格試験、副グループリーダー級職員資格試験比較(案)への組合意見

広島大学教職員組合
執行委員長 神野礼斉

貴職の日頃の奮闘に敬意を表します。

さて、当該議題について1月30日付学長決済により変更の意向である旨、ご説明をいただきました。主な変更点と理由が以下のようなことでしたが、組合内の意見を述べます。

【主な変更点】

取扱注意

	現在	(案) GL 級対象	(案) 副 GL 級対象	組合意見
① 対象者	副 GL 級、主査級	副 GL 級、主査級	主査級、主任級	○
② 推薦者 (推薦可能人数)	部長級、GL 級(原則1人)	部長級(1人)	部長級(2人まで)	×
③ 自己推薦	可	副 GL 級のみ可	主査級のみ可	○
④ 受験回数制限	なし	なし(自己推薦不合格は次年度自己推薦受験が不可)	同左	○
⑤ 例外	図書、施設、高度専門職 場別に定める	例外なし	同左	△
⑥ 試験内容	面接試験(1回)及び小論文試験	面接(1回)(抱負を業務実績書に記載)	同左	○
⑦ 面接試験官	学長、理事、人事部長、その他学長が必要と認める者のうちから学長が指名	理事、部長級	部長級	×
⑧ 結果判定	A ランク、B ランク区分 A ランクのものを名簿掲載	合否決定、合格者を名簿掲載	同左	○
⑨ 結果通知	A ランクになった者、および推薦者に通知	全受験者、推薦者に結果通知	同左	○
⑩ 候補者名簿	試験翌年度の4月1日から4年間	試験結果通知の翌月から翌々年度の4月1日まで(3年間)	同左	○

⑪ 試験実施時期	原則、隔年の1月	原則、毎年実施	同左	○
⑫ 併願	-	副GLとの併願不可	GL級との併願不可	○

【ご説明された変更理由】

今まで副GL級を増やすのが難しかった。それぞれの職階から選んでいただくようにする。また、今までAランクになれなくても副GL級に足りている人を取りこぼしていた。

【確認事項】

- 主任、主査級が副GLに登用された場合は、当然「級」も当該職に対応する「4級、5級」相当に変更となるということで間違いないでしょうか。つまり、主任「2級、3級」、主査「3級、4級」のまま副GL任務の遂行を命じるということはないということの確認です。この間、財源を理由に一般事務職員の主任、主査級の昇格(級)が停止されていることは労働慣行上、由々しき事態だと認識しています(広報紙ひろば87号他に掲載)。また、この近年昇格(級)＝給与アップの時期を期待していた年代層にとっては不合理な事態です。
- 資格試験は今後、原則毎年1月実施とされていますが、今年はどうなりますか。
- 昨年2021年3月19日付け労働者代表の意見書において以下のお願いをしております。
GL、副GL職への理解をより深めるためこちらも次回の機会によりしくお願いします。

② 職種及び職階の見直し

東広島地区運営支援部の事務体制

- ・GL級に総括支援室長を記載
- ・副GL級に支援室長を記載

特に意見はありませんが、別の機会に東広島地区の事務体制の編成変更については詳細をご説明してください。

【主な組合意見】

項目ごとに以下を申し上げます。

① 対象者

主任も副GLへの挑戦できるようになっている点が新しい部分です。広報紙ひろば87号に記載の通り、2021年6月9日のいろは職員録の人数規模は部長級15名、GL級50名、副GL級28名、主査級198名、主任級216名、グループ員96名です。今後この人数バランスをどのようにあるべき姿とされたいのかは明らかではないですが、現状この数値からわかるように主任が圧倒的に多く、また主査にはなかなか登用されにくく部署によっては主査がいないということもあるようです。いずれにせよ上に行ける間口が広がることには期待します。

② 推薦者

推薦者は部長級となっていますが、これまでどおりGL級を残しておいたほうがよいのではないのでしょうか。各部ごとの職員の数は大きく異なっており、一人の部長が推薦

できる者の人数が原則として GL 級を 1 名、副 GL 級を 2 名のため、所属する部によって、推薦されやすさが大きく異なります。

また、部によっては部長と、主査・主任には、ほぼ面識がないこともあり、現実的に部長が推薦するというのは難しいのではないのでしょうか。（実際には、室長などが推薦書を記載することになるのかもしれませんが、それであれば、これまでどおり「GL 級」としておいたほうが良いでしょう）。

⑤ 例外

これまでの例外は必要があって専門的部門を別にされていたことと思いますが、これを廃することで不具合が起きないか懸念します。

⑦ 面接試験官

推薦者も部長級、試験官も部長級ということですが、当然それぞれ違う個人があたることと推測しますが、万が一、推薦と面接試験官が同じ部長級の人物が兼ねる場合は当然出来レースであると懸念されますので、念のため指摘しておきます。ともあれ、透明性、公平性の確保の観点から複数名で試験官をされることを求めます。

●まとめ

何よりも、主査、主任級の昇格（級）の停止を以前のように元に戻すことが大前提です。給与の面が安心できて初めて、この上位職への昇任試験の改定を歓迎します。

以上